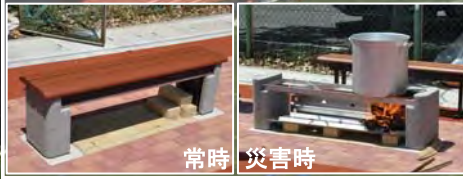


# 災害に強い キャンパスをめざして

## かまどベンチ



常時 災害時

静岡大学大谷キャンパスにおける6箇所の擁壁・法面の補強、大谷キャンパス・浜松にある城北キャンパスのグラウンド人工芝化及び防災施設整備設計を行った。

該当する擁壁・法面は、隣接する歩道や広場を学生や職員、一般市民が日常的に利用しているが、施設の老朽化や地形の変状、想定される大規模地震に対し安全面において問題が発生していた。

そこで、擁壁・法面について地質調査・測量を行い、その結果に基づいて安全性確保の検討と対策を行った。

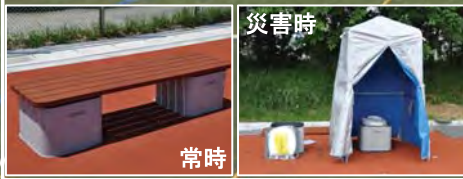
法面の主な対策工として、 $\phi 115\text{mm} \cdot L=13.5\text{m} \sim 17.5\text{m}$ のアンカー工を72本、鋼製のセミスクエアタイプ受圧板（形状寸法1900）を72基施工した。

## 防災パーゴラ



常時 災害時

## トイレベンチ



常時



災害時

静岡大学静岡キャンパスのサッカー・ラグビー場（約12,000㎡）と浜松キャンパスの運動場（約9,500㎡）を、災害時には屋外避難所として防災機能が果たせるよう、グラウンドの人工芝化を図るとともに、“防災パーゴラ”“トイレベンチ”“かまどベンチ”等を設置し、地域防災拠点として活用できるよう整備した。

教職員・学生を除く住民の受け入れ人数は、静岡キャンパスでは811人、浜松キャンパスでは隣接の和地山公園と合わせて28,200人を想定する。

## 張り石工



施工前

施工後

内部の逆T式擁壁は構造上安全であったが、表面を覆っている自然石の落下が懸念されたため、擁壁に設置したレールに自然石を固定する工法を採用している。

## グラウンドアンカー工



現地調査より斜面変状が確認されたため、地質調査結果を基に法面にグラウンドアンカーと受圧板により補強を行った。

静岡大学（大谷他）基幹・環境整備（運動場等）設計業務

発注者：国立大学法人静岡大学